

# 世界自然遺産「奄美大島」の未来を見据えて 「奄美の魅力フルコース堪能プロジェクト」

～未来につなぐ奄美の可能性～

鹿児島県立奄美高等学校  
教諭 寺師 駿

## 1 はじめに

本校は、平成29年度に創立100周年を迎えた5つの学科を有する専門高校である。令和4年度は、機械電機科98人、商業科56人、情報処理科119人、家政科85人、衛生看護科40人、計398人が在籍している。また、2021年7月26日に奄美大島が徳之島と沖縄を含めて「世界自然遺産」に登録され、日本のみならず世界から注目されている。くしくも世界自然遺産登録のタイミングと新型コロナウイルスの流行と重なってしまったが、世界遺産登録を契機に奄美大島に来島する観光客の増加は著しく、観光業など大きな盛り上がりを見せている。

## 2 5学科連携「奄美高校レストラン」

奄美大島は、手つかずの原生林や風土を生かした伝統工芸・文化、温暖な気候で育まれた特産物、温かい人々の心の繋がり（結いの精神）など島ならではの魅力がたくさんある。本校では、平成29年度から、5つの学科が横断的に連携し、奄美大島に来島する観光客を対象に「奄美高校レストラン」を実施してきた。これは生徒が主体的に企画運営し、地域の関係機関と協働して取り組む実践的・体験的な活動として、奄美大島の魅力を世界に発信することで「インバウンドの誘発」に繋げ、地域経済への貢献を目的とした取組である。また、専門高校の特色を生かした奄美高校のブランディング戦略としての役割も担っている。

令和2年度からは、新型コロナウイルスの拡大により、観光客をターゲットとした開催が困難となり、ターゲットを奄美大島在住の方に切り替えた。接客・調理指導も島内で活躍されているプロフェッショナル

の方々に協力を依頼し、サービスを提供した。

## 3 with コロナが生んだ「奄ふるプロジェクト」

### (1)きっかけ

令和3年度の「奄美高校レストラン」は、新型コロナウイルスが島内においても猛威を振るい、中止を余儀なくされた。

今年度（令和4年度）はwithコロナでの実施を模索し検討を進めていたが、校内にお客様を招いて接客や料理などのサービスを提供する従来の形式では困難であるという判断に至った。しかし、世界自然遺産に登録され、今後、観光客の増加が見込まれている現在、地域と協働して奄美大島の魅力を全国や世界へ発信することは非常に重要である。これからの奄美大島の経済を、その中心的存在として動かす子供たちの育成に繋げる実践的・体験的な学習活動を何としても確保したいと強く思い、生徒と職員で思案を巡らせ、これまでの取組の継承を念頭に「観光ビジネス」を学ぶ機会を創造し、新しいカタチとして「奄ふるプロジェクト」を始動させた。



図1 観光客からの声をプランに反映

### (2)企業と協働「新しいカタチ」の模索

「新しいカタチ」を模索していく過程の中で、「奄美山羊島ホテル」様と「ワールド航空サービス」様

と協働して企画を進行していくことになった。

「新しいカタチ」を企画するにあたり、ワールド航空サービス様がこれまで販売してきた奄美大島の魅力を堪能する3泊4日のツアーの中の1日の行程を本校生徒が企画できるチャンスをいただいた。その1日の中に奄美大島在住の人たちとコミュニケーションを図る要素を組み込むことが要望され、本校生徒が高校生らしい発想のおもてなしプランを構成していった。奄美山羊島ホテル様には、レストラン会場を御提供いただき、これまでの「奄美高校レストラン」の意志を継承するスペシャルランチをツアーに組み込んだ。

### (3) 「奄ふるプロジェクト」始動

奄美の魅力フルコース堪能プロジェクト（奄ふるプロジェクト）は、商業科・情報処理科の3年生が考案した。生徒はプロジェクトの実行委員を中心にグループに分かれGoogle Jamboardを活用し、KJ法によってアイデアを出し合い、プロジェクトの中身を構築していった。今回のプロジェクトでは、スローガンを「未来につなぐ奄美の可能性」、コンセプトを「満ちる空間、褪せない時間、記憶に残る素敵な旅にします」、経営理念に「顔に笑顔。心に感謝を。島に誇りを！」と設定した。



図2 Google Jamboard を活用しアイデアを共有

### (4) 「奄ふるプロジェクト」の概要

#### ア 目的

本プロジェクトの目的は、①日々の授業の学びの集大成とすること。②郷土、奄美大島の魅力を理解し、その魅力を自信と誇りをもって発信し、将来、奄美大島を担うリーダーとして活躍する人材を育成

すること。③様々な分野のプロフェッショナルと協働することにより専門的な知識と技術を習得し、職業観の醸成を図ること。④「奄ふるプロジェクト」を地域の方々に知ってもらい、地域に密着した専門高校として、地域から認められ、応援される学校に変容することの四つを目的として取り組んでいる。

#### イ 組織図

今回のプロジェクトは、3年生を中心に商業科11人、情報処理科40人で構成し、全体統括リーダー1人、学科リーダー各1人、接客班、販売・受付班、広報班に役割を分担した。その中で、課題研究「奄ふるプロジェクト」選択者7人がプロジェクトの中心として企画運営を行った。また、学科横断的な取組として、本校家政科に協力を依頼し、協働して本プロジェクトを進行していった。詳細は、図3の組織図を参照。

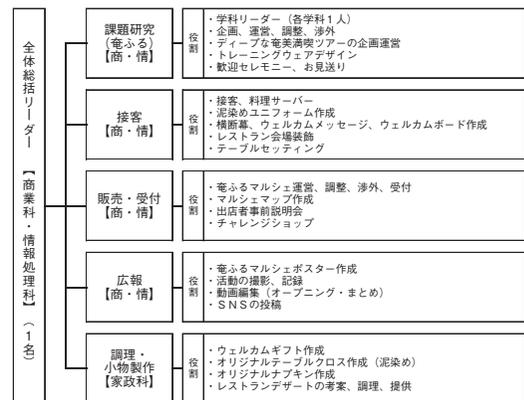


図3 奄ふるプロジェクト組織図

### 4 「奄ふるプロジェクト」ツアーの詳細

前述したように「ワールド航空サービス」様に「奄美大島ふれあい旅」と題し、旅行商品として販売がスタートした。このツアーは12月8日(木)～11日(日)3泊4日の計4日間で、そのうちの3日目を本プロジェクトの実施日として実行した。お客様は奄美大島行きの直行便(日本航空)が就航している羽田空港と伊丹空港を起点に、計40人のお客様に参加していただいた。今回ツアーに参加したお客様の年齢は60～80代のシニア層であり、旅行先で人々とのふれあいを楽しみにされている方が多く、今回のツアーではそのようなお客様の要望

に応えるために、「高校生ならではの」のアイデアをツアーに詰め込んで様々なイベントを企画した。企画を検討する段階では、コロナ禍の様々な状況を想定し、いくつものプランを作成した。これまでの経験を踏まえ、地元企業や関係機関と協働し課題解決に努め、ツアーに参加するお客様の顧客満足度が最大になるように計画を進めていった。また、ツアーを構築していく中で、奄美大島の伝統文化を生徒自らも体験し、その唯一無二の文化を次世代に継承していくことも意識してプランの構築を行った。

### (1) 島口ラジオ体操・簡単エクササイズ

島内でスポーツジムの運営する「PRIDE+」様に御協力いただき、ツアー当日の朝を気持ちよくスタートすること、心と身体を整えてより良い旅にさせていただくことを目的に企画した。島口ラジオ体操は、おなじみのラジオ体操を奄美の方言（島口）に吹き替えたもので、島口に触れてもらうことを意識した。奄美の「島口」はこの先、日本で失われてしまう可能性のある方言とも言われており、その島口を絶やさないためにも取り入れた。



図4 お揃いのオリジナルウェアで「島口ラジオ体操」

### (2) ディープな奄美満喫ツアー

地元のラジオ局「あまみエフエム」のパーソナリティの方に協力を依頼し、観光雑誌には載ることのないスポットを生徒自らが街歩きを行い、コースの選定を行った。このツアーの中で商店街界隈を巡ることにより、島の人たちとの交流を図った。

また、令和5年に奄美の本土復帰70周年を控えていることもあり、復帰運動の歴史を、語り部による説明と、小学生による復帰の歌の歌唱と詩の朗読を通して、ツアー参加者の心にアプローチした。

その他にも、三線を扱う楽器店、歴史ある教会、奄美民謡のコンサート、奄美固有の動植物の説明、趣ある市場などディープなスポットを巡った。



図5 生徒が先導しディープなスポット巡り

### (3) スペシャルランチ

これまでの「奄美高校レストラン」を継承するスペシャルランチとして、島の食材を使用したコース料理を生徒が心を込めて配膳し、接客を行った。コース料理のデザートは、家政科の生徒が考えたオリジナルデザートを提供した。接客の際に着用したオリジナルウェアは、奄美の伝統工芸である「泥染」（大島紬の染色技術）を用いて、生徒が実際にデザインと染色を行った。

また、文化継承として、プロ歌手による「島唄コンサート」や保存会の方と一緒に「八月踊り」をランチ会場で行い、奄美の伝統文化をツアー参加者に披露した。地元の大人が本気でおもてなしをする姿を、生徒が目当たりにし、体験できたことは大きな収穫であり、生徒の心に文化継承のきっかけを芽生えさせることができたのではないかと強く思った瞬間だった。



図6 オリジナル泥染ウェアで接客サービス

#### 4) 奄ふるマルシェ

ホテルの屋外庭園では、地元の企業28社の御協力の下、「奄ふるマルシェ」を開催した。これはツアー参加者だけへのおもてなしではなく、島内在住の方にも来ていただけるプロジェクトにしたいと考え、企画したものである。当日は天候にも恵まれ、多くの方に来場していただいた。ツアー参加者にはスペシャルランチの後にマルシェに立ち寄っていただき、島の伝統工芸品や個性あふれる商品を楽しみながら、島の人たちとの交流を生み出すことができたと思う。企画したお楽しみ抽選会も好評で、会場は出店者、生徒、島内在住のお客様とツアーのお客様を含めて、たくさんの笑顔に溢れていた。



図7 大盛況となった奄ふるマルシェの様子

#### 5 生徒の変容

今回のプロジェクトを終えて、生徒の変容を様々なタイミングで実感することができた。

アイデンティティが芽生える大切な時期の大半がコロナ禍であり、様々な発表の場が取り上げられ、人前で自分を表現する機会に恵まれなかった生徒たちに、今回のプロジェクトで「自信」をつけてほしかった。それぞれの役割で躍動する生徒の表情を見た時に、このプロジェクトの意義を強く実感した。

生徒個人やこのプロジェクトの評価にあたっては、生徒個人のルーブリック評価、協働していただいた企業やマルシェ出店者へのアンケートを実施した。ルーブリック評価表や事後アンケートの結果をフィードバックし、より良い地域と協働する取組を、今後も企画・運営していきたい。

#### 6 おわりに

今回の「奄ふるプロジェクト」は、商業科の1～2年次の基礎的内容と3年次の応用的内容の総合化を図り、生徒自ら地域の各関係機関、島外の企業と連携し取り組んでいく実践的・体験的学習の発表の場である。これまでの「奄美高校レストラン」からコロナ禍でも実現可能なプロジェクトへとプラスの転換をするといった、新型コロナ感染拡大に対してのリスクマネジメントはもとより、前向きに動き出す行動力と物事を前に進めていく発想力も発揮できた。日々の教育活動を通して世の中の変化や現状に瞬時に対応できる資質・能力がしっかりと形成されていることからレリバンスを実感できた。このように専門高校で学ぶ生徒たちは、それぞれ持っている強みを伸ばし、弱点の克服や、社会に出る「不安」を「自信」に変えていくことができている。今後も日々学んでいる「商業」の学習内容を地域に発信し、地域の中で行動に移すことで、地域の課題を発見し、その課題を解決する力を養っていきたい。

将来「奄美の魅力を世界に発信できる」人材の育成を目指し、地域に寄り添った専門高校として、奄美高校でしかできないオンリーワンの取組を地道に実践し、地域資源に新たな価値を見いだせる地域振興の核となれるよう成長していきたいと思う。日本の南の島の専門高校から、次世代の商業教育のスタンダードとなる取組や、専門高校の魅力を全国に発信していきたい。

今回のプロジェクトの様子は本校の公式Instagramで掲載した。生徒それぞれの表情から達成感を感じた。是非ご覧いただきたい。(@amami.hs\_amakou)



図8 プロジェクト終了後の記念撮影